

令和6年度 長野市農業振興審議会 議事録（概要）

- 開催日時 令和6年7月18日（木）午前10時から午前11時40分まで
開催場所 長野市役所第二庁舎10階 会議室203
出席者 委員11名、傍聴3名、事務局（市職員）15名
- 次 第
- 1 開会
 - 2 挨拶
 - 3 委員委嘱
 - 4 自己紹介
 - 5 会長、副会長の選出
 - 6 会長、副会長挨拶
 - 7 議事
 - (1) 長野市農業振興アクションプランの実施状況について
 - 8 報告
 - (1) 長野農業振興地域整備計画総合見直しのスケジュール変更等について
 - (2) その他
 - 9 閉会

【議事（概要）】

議題(1) 長野市農業振興アクションプランの実施状況について

資料1-1、1-2、1-3に基づき事務局から説明

<質議>

（委員）

資料1-3が非常にわかりやすい。取組状況を内外にタイミングよく周知していくことが重要である。

（事務局）

市のホームページなどで積極的に情報提供していく。

（委員）

凍霜害の防霜ファンに対する補助件数が少ないのではないか。

（事務局）

市の制度では、国の補助要件の対象とならない人を対象にして全域をカバーしている。国の補助を含めると補助対象件数は40数件となる。

なお、市の補助要件については、農用地内の青地の場合、果樹園の受益面積の合計が10アール未満又は5ヘクタール以上である。

(委員)

子どもが山村留学していて大変良い経験になった。都市部の子だけではなく、長野市の子どもも農業経験があると、将来的に長野市に戻ってきてくれることが期待できる。地元から積極的に山村留学を受け入れてほしい。

(事務局)

子どものころから農業を体験することは、非常に重要であると考えている。農業研修センターでの親子農業体験等も実施しているが、今後も子どものころから農業に親しむ機会を作っていきたい。

(委員)

良い取組を行っているのに、知られていないことが多い。若い人たちを動かすにはSNSが有効であるが、活用状況はどうか。

(事務局)

若い人たちにとっては、SNSの力が非常に強いと認識している。イベントの際には、発信に加えて、次に繋がるような仕組みづくりを意識的にしている。また、新規就農者に農業の良さを伝えるため、若い職員が中心となりSNSを発信している。

(委員)

若者の新規就農者が非常に少ないので、原因究明に加えて、新規就農者の掘り起しのために、都市部での募集等の情報発信が必要である。農業ができる環境が整っているところへ行きたいという若者はいるので、長野市に来て安心して就農できるという情報提供と、農業関係者が連携して1人の新規就農者に対して支援できるような体制づくりをお願いしたい。

また、これまでは60歳定年を迎えて農業を始める人が比較的多かったが、企業も人手不足で定年延長により60歳を超えても仕事をしている。それでは、その後に農業に携わろうとする気力がほとんどなくなってしまうので、60歳定年以降でも農業を始められる支援と、農業の魅力発信が重要である。

(事務局)

首都圏等でのイベント実施の際には、観光や移住・定住関係の部署とも連携して長野市に人を呼び込もうとしている。長野市の良さを売っていくためにはこれらのパッケージ化が重要であるので、事業につなげていく。

定年延長により農業を始めるきっかけが失われてきていると感じている。ただ一方で、ヘーゼルナッツについては、仕事をしながら兼業でできるので、非常に魅力がある作物である。ヘーゼルナッツをきっかけとして、他の作物に裾野を広げられる可能性もあるので、SNSを活用した情報提供により、より多くの人に知ってもらえるよう取り組んでいく。

(委員)

池袋のサンシャインシティのイベントでは、QRコードでアクセスすると配布りんご提供先のホームページにつながるところまでは良かったが、実際の商品であるリンゴが販売されていなかった。イベントを通じて、リンゴの注文まで入れば、非常に素晴らしい取組だと考えていたが、売方でシャットアウトしてしまうのではもったいない。我々、商品を提供する側としても生産技術の向上はもちろん必要だが、新規就農者で若くて行動力のある方々に是非農業に取り組んでもらいたい。

また、新規就農者が定着しない理由の一つに、農業する環境が整っていないことが挙げられる。私の実家でも、母が1人で大規模な農業を行っていたが、若い後継者が見付かり、倉庫や農機具を無償で貸し出し、農業を続けてもらっている。母も使い切れなかった機械を活用してもらえ、非常に助かっている。農業を続けるために、こうした適切な環境と支援が整えば、新規就農者も定着しやすくなる。

(事務局)

やりたい人と継ぎたい人のマッチングは非常に重要であると考えている。土地については中間管理機構があり、機械については機械補助等もあるが、全てを一から揃えるのは大変なので、情報提供とともに、双方をつなげる取組を進めていきたい。

(委員)

池袋サンシャインシティの件は、これだけのイベントを実施したのに、顧客が買いたいものが実際にはないというのでは非常に問題である。一度断られたら2度と顧客は戻ってこないなので、事業の裏付けも含めて安全策も考えていかなければならない。

(委員)

後継者探しには、まず農協へ相談してもらおうこととしているが、市でも農機具などを無償で貸し出してもらえようような人をつなぐ仕組みがあればありがたい。

防霜ファンの補助金について、長野県では個人には出せないなので農協がまとめて購入し貸し出しているケースがある。個人での防霜ファンの整備は、市で助けてもらった方が良い。

温暖化の影響で農業は困難に直面しているが、適切な環境整備と支援により、農業を続けやすくすることが大切であるし、今後も若手の担い手を育成し、農業を発展させていくための努力が必要である。

(委員)

篠ノ井有旅のワイナリーへの支援額と、本年度できる信州新町と浅川についての支援を伺う。また、本年度のヘーゼルナッツと農業政策課全体の予算規模はどうか。

(事務局)

篠ノ井有旅のワイナリーへは、国のローカル10,000プロジェクトの制度を活用し、国

から2,500万円、市から2,500万円で、合計5,000万円の支援額となる。

信州新町については、既存の農産物加工施設等支援事業の補助金で最大500万円を、浅川は市地域活動支援課のやまざとビジネス支援補助金で最大500万円を支援する予定である。

ヘーゼルナッツの予算は、苗木補助を中心に約858万円で、農業政策課全体の事務事業費は、約8億5千万円である。

(委員)

マイスター協会は県の制度で、地域の農村女性を支援するために組織している。協会のメンバーは地域の学校で農業教育を支援する意欲があるものの、県や市などの関係組織がそれぞれに動いているため、一貫性のある取組が必要だと感じている。もっとマイスター協会を活用してほしい。

(事務局)

マイスター協会とも連携してできれば、非常にありがたい。長野市でも農村女性ネットワーク研究会などが自発的に活動しているが、マイスター協会にも力を借りながら進めていきたい。

(委員)

農業支援が多岐にわたることを理解した。長野市は広く、市街地とひとくくりにしてしまうとイメージが一致しない部分があると感じた。報告された指標に関しては、こうした実態と合わない印象を受けたが、指標自体は間違っていないと認識している。ただ、年度別の伸びはそれほど大きくなく、エリアごとに状況も異なるため、全体像を把握しにくい。農業生産者にとって重要なのは、作物をどのように販売し現金収入を得るかであり、その支援部分が指標としては適しているのだと考えている。

【報告（概要）】

報告(1) 長野農業振興地域整備計画総合見直しのスケジュール変更等について

資料2-1、2-2に基づき事務局から説明

<質疑>

なし

報告(2) その他

なし